

A stylized pink heart with a thick black outline. The word 'BLANCO' is written across the heart in a large, bold, black, rounded font. The heart is set against a white background. In the top-left corner, there is a blue triangle containing an orange circle. In the top-right corner, there is a purple triangle containing a yellow crescent moon. The bottom of the heart is framed by stylized leaves: two orange leaves pointing outwards and two green leaves pointing inwards.

BLANCO

僕の半分
私の半分

ふたりでひとりのブランコ

Seanson

4

2012/04/21 新月の日に

今晚はblacoです。

今宵は新月。

月は肉眼では見えません。

また明日から少しずつ月は形を現して満ちてゆきます。

今日からBLANCO4 へと移り、また新しいページをふたりに創っていきます。

いつも覗いてくれてありがとう。

そしてまた 私たちと一緒に

いろんな想いの交差するこのページを ゆっくり、ゆっくり味わうように楽しんで下さい。

みなさんも素敵な夜を～

ちなみに毎回表紙は半身が書いています（^◇^）

今回、少々派手！？！？かな(笑)

blanco の コロンより

千夜一夜

長い針が一回転
短い針が一回転
僕らの星が一回転
太陽系が一回転

おはよう
 こんにちわ
おやすみなさい
 ごきげんよう

隣り合わせた巡り合わせに

おめでとう
 そして、ありがとう

銀河は静かに一回転
できればできるだけ
ゆっくりと

長い針が一回転
短い針が一回転
僕らの星が一回転
太陽系が一回転

おはよう
 こんにちわ
おやすみなさい
 ごきげんよう

隣り合わせた巡り合わせに

おめでとう
 そして、ありがとう

銀河は静かに一回転
できればできるだけ
ゆっくりと

暫く長い針と、
短い針は
重なり合ってひとつになって、
優しい時間が一瞬止まる。

やっと逢えたね、また逢えたんだよ。
またね。ああ、行ってきます。行ってらっしゃい。
そしてまた、コンニチワ。

ゆっくり ゆっくり何度も巡る。
おかえりなさい。ただいま。

空には今夜も月が穏やかに光る

君のLOVE 僕のLOVE

君のLOVE

柔らかく透けてゆく

僕のLOVE

ほんのりと色褪せてゆく

寂しくなんかないさ

やがてすっかり見えなくなって

僕らの周りにとけてゆく

それはとてもとても自然にね

私たちの周りにとけたLOVE

柔らかく透けてほんのりと色褪せて・・・

でもあなたが言うように

怖くも寂しくもないの

色褪せたらまた季節を重ねるように

ハートを染め直せばいいんだわ

空気みたいな愛はイヤなの！

毎日ドキドキしていたい

出逢った時のまま

いいえそれよりもっともっと深く

ココロの棘

言葉はいつも口元を離れ
ココロに突き刺さる
けれどもまた
言わなければ気づかれることもない
永遠に

なら、あなたは私の棘抜きだわ！
私のココロの奥深く刺さった言葉を
いとも簡単に抜いてしまう
不思議ね・・・
でも私の恋心までは持っていかないでね
まだ、ここでほのかに温めていたいから

君のための僕

君のためにしてやれることを考えていた
君がほしいアレやコレを想像してみた
でもね
最近思うんだ
そろそろ君といっしょにできること
探してみようかってさ
日は暮れて、また登る
明日の明日をふたりでさ

私のために出来ること
私がほしいアレやコレ
きっとあなたはもう気づいてる
あなたといっしょにできること
あれもこれももっともっと
欲張りな私には たくさんあるの
探さなくてもほら！
感じてるでしょ？
いつだってふたりはひとつだったんだもん
ねえ
明日も晴れるといいね

化粧

うん。

こういうとき女に生まれて良かったな～って思う

化粧って便利だよ！

顔色も表情も

そして心まで

覆い隠してくれるから

装いも新たに

生まれ変わる毎日だから

嘘だとしたって

前を向いて歩いていくんだね

本当の自分なんて

たぶん誰にも分からないから

彩りも華やかに

変われ！ワタシ！

想い言葉

君と僕とをつなぐために
ゆっくりと舞い降りてきた言葉は
それでもなんだか居心地悪そうに
あたりを行ったり来たりしている
僕がどうすればいいのか決めかねていると
月は空に溶け消えて
すっかり明日になっていた
ああ
でも分かったよ
僕は君が好きなんだ

思わず口にした言葉
少し拗ねたり
笑ったり
時にはふざけた口調になって
本音を託してみたりして？
言葉は不思議
言葉は心
言葉は私よりお喋りで
いつも私を困らせる
ねえ
そうでしょ？
そうやって少しずつ
あなたへの隠した想いが
今日も溢れだす

眠れない夜、やって来た朝

夕べ、とっても嫌なコトがあった・・・
凄く気をつけてたのに
なんだか人って信用できない！
膝抱えて猫みたいに丸～くなくても
お気に入りの音楽聴いても
眠りにつけなかった。
そんな日はどうしたらいいんだろう？
兎みたいな眼したまま
何時ものように日常って名前の街に
ピョンピョン跳ねて飛び出した
そして今日を始めてみたの
おはよう！
て、小さな声で言いながら

夕べ、とっても嫌なニュースを聞いた・・・
誰かが誰かを傷つける以上に
誰もが誰かを癒せるならいいのに
って思うけど
ふりあげられた拳はいつだって
落とすところを探しつづけてるんだ
それでもね
誰かが言ったよ
悪いことばかりじゃないってね
いいことばかりじゃないけれど
そして明日は訪れる

僕らの神様

やっぱりいないね
神様なんて
凄く疲れた
子供の頃みたいに安心して眠りたいな

僕はさ
いると思うんだ
神様

でもね
きつととっても疲れているんだ
なんでもかんでも任されちゃうことにね
みんな
子供の頃みたいに純粹ならいいのだけれど

いつからだろうね
みんな平気で嘘ついて
いつからだろうね
自分だけが英雄気取り！
ピュアなハートなんて探したってみつからない！

ずっと、
ずーっとね探してたような気がするの
わたしだけに優しい神様
特別な神様

ああでもね
僕はいると思うんだ
君がそういうのなら
間違いないさ
きつといるのさ
ただ
気がつかないだけなんだ
僕らの方がね

今日の日のご挨拶

今日も日が暮れたね
明日も晴れるといいね！
って言ったけど
朝からの雨に泣かされた
おはよう
からはじまって
おやすみなさい
で終える一日
もう何回繰り返したんだろう？
静かに回る時計の針は
今日もゆっくり一回転
コチコチと響く音は
あなたへ続く私の鼓動
お疲れ様
そしてありがとう

おはよう！
こんにちわ
今日も夜が明けたよ
つまらないくらいあたりまえに
いつもどおりに当然に
くりかえす毎日
変わらない挨拶（フレーズ）
どれくらい繰り返したろう？
君と交わした言葉は
サラサラサラサラ
心の奥に降り積もる
今日も
ありがとう
また明日！

眠たげな魔法使い

朝目覚めて

夕べの魔法が一瞬でとけてしまったのかなあ～

って、少し哀しかった

晴れるといいな～て気持ちに応えたのに雨だったから

でも

おはよう！って

いつものようにHAPPYもらえたから

私は今日も魔法にかかったまま

またあなたに恋をした

そんな今朝の出来事思い出して時計みたら

4時

眠たげな朝

マボロシのように煙る雨

晴れのはずの予定が台無しだ

でもね

朝にはとびっきりの魔法があるんだ

うっかり者の魔法使いが

もらってしまった呪文がね

その

変わらない言葉は

今も変わらない想いを

伝えるんだ

君へ

おはよう！

Proceed

僕は何を追いかけているんだろう・・・

いや！

何かから逃げているのかもしれない

追われているのか

追い求めているのか

わからないまま

僕は自分の脚が確実に

一步一步

前に進んでゆくのを感じた

呼び声は遠ざかり

また通りすぎ

近づいては離れていく毎日

追いかけていた影を追い抜けば

つぎは追いかける番だ

ああ

だから

僕は進んでいくんだ

追い越されないよう

前へ前へと

本当のこと

嘘つきの口からふいに飛び出した
紛れもない真実を君に贈るよ
涙もあふれんばかりに大泣きした子どもが
すっかり笑顔になった一言を
君に贈るよ

正直者の口からなぜか飛びだした
哀しい嘘をあなたに贈ってしまった
無邪気に笑って走りまわってた子どもが
心の奥の
もっと奥底にスコープで掘り隠してた一言を
あなたに贈ってしまったの・・・

本当も嘘も
本当だったことも嘘だったことも
別々にあるわけじゃなく
本当になったり嘘になったり
僕らのまわりをぐるぐる回る
でもね
大切な何かを伝えたくって
いつだって必死であがくんだ

真夏のオリオン

オリオンの端っこから落っこちて
僕は空を見上げた
夜の深い深いところで
忘れてしまった面影を取り戻そうと一生懸命
ああ淡い街の灯が
予感させるすべての生を遠ざけて
君の眠る場所へ急ぐんだ

月に飛ぼうとして落っこちた
あわてんぼうのわたし
普段は無口なあなたが、時折放つ氷のような言葉が
わたしの羽根を傷つけたみたい・・・
こんな日は星屑をワイングラスに集めて
甘い甘いカクテルつくって
意地悪なあなたの口に流し込んでやろうかしら？
取り戻そうたって、もう遅いかも
そう考えながらも時計ばかりを気にかけてるの

ねえ、
はやくきて！

僕の薔薇

僕の薔薇

つぼみのうちに目を付けておいた

僕のかわいい薔薇

楽園を抜け出して君に会いに行くよ

だから少しお手やわらかに

ほかの奴らと同じように

僕だって傷つくんだ

美しく咲いた薔薇

震えていた小さな蕾だった薔薇

あなたの愛を一心に受け

花開いた薔薇

何ども私を摘み取ろうとして

他の人がやってきたの！

だから私小さくて鋭い棘で

チクッ！

と、刺したの・・・

私ね！その度に不思議だけど美しく色づいていったのよ！

過ぎ去りし今

行ってしまうよ
僕はここから
行ってしまうよ
僕はひとりで
ふり向いたってムダさ
知っているだろ？
いずれにしたって
目玉は前にしかついてないんだ
過ぎ去りし今日を
明日になんかできやしないんだぜ？

行ってらっしゃい
優しかったあなた
ふり向きもせず
ええ
あなたは、このまま進むべきなんだわ
前だけを見据えて

なんて言えたら良かったのかな？
物わかりのいい女性のように
ああ
でもね
あなたを独りでなんか行かせたくないのよ！

もちろん気づいているわよね？
いつだってあなたの後ろ姿を
見つめてるだけなんかじゃないってこと
今更後悔しても無駄よ
過ぎ去った明日が
まぎれもなく今なのだから

台本

わたしの為に台本ができたみたい！
望まれている筋書きで
この先の人生を歩まなくちゃいけなくなったわ。
思い描いていた役とは違っていたの！
だから、たま～にアドリブ入れたり
ヘタは下手なりにね、演じてきたのよ！
でも、
もう抗えないみたい！
演出家の思いのままに
そろそろキチンと演じようと思うの。

それが個性的だと思ったのか
それが魅力だと思ってか
ときどきありきたりの個性ってヤツを演じたがるものさ

自由だって？
なんの制約も無いって意味なら
そんなものはありはしないさ
男だったり女だったり
子供だったり老人だったり
右だったり左だったり
上だったり下だったり
みんな
与えられた役どころの中であがくのさ

さあ
そろそろ
君のステージだ

限られたありふれたセリフの中に
君だけの命を吹き込むんだ

溶ける。

眠れない夜が続くの
このまま闇に溶け込んでしまえたら
どんなに楽なんだろう・・・

僕は闇
君を連れて行くよ
お望みなれば今すぐにでも

おいで

手先からか
足元からか
もしくはスッポリ頭からか
じんわり
じわりと
失っていく感覚
それは快樂にも似た衝動
もはや
全身を保つすべもなく
溶ける
生ぬるくまとわりついた闇に
溶ける

でもお気をつけなさい
首までつかればもうお終い
光をみることは二度と叶わぬ絶望さ

間にあるもの

不幸と幸福の間にあるものって
どんな色なんだろう・・・
ふとそんなコトを考えた夜

眠れなくて泣き出すことは
もう
ないのだけれど
ときどきなんだか不安になるの

すべてを望む者はすべてを失うという
だから
本当は答えなんていないはずなのに
真ん中辺りをいったりきたり
揺れる想いは
ココロとココロの間にあるものを
知りたがるのよ

描かれた空。

一刻一刻の変化を追って描かれた空

その微妙な色あい

まるで

あの日の記憶のように

変形していく

本当は違うかもしれないし

同じように

君には見えてやしないのかもしれない

「不変なものなどなにもないのさ」

とでも言いたげに？

一刻一刻の変化を追って描かれた空

心の変化を追いかけて

描かれていく風景

苦悩

信じるコトと、
愛するコトとの間で迷っていた深い苦悩
すべてはマボロシ
と、言い切れたならよかったのに
近づくべきか、離れるべきか
打ちあけるべきか、忘れてしまうべきか
迷ってる段階でココロの答えは決まっているというのに
明日世界が終わるとしたって
そんなことで悩みつづけるんだ

伝わらなかった後悔と
伝えようとしなかった後悔
どっちがイイか？
なんて
そんな単純にはいかないさ

僕らのブルームーン

ブルームーン、僕ら行く道を照らしておくれ。
ああ、願いはたぶん、僕ら自身で叶えるもの。
だからねえ、ブルームーン、
どうか僕らの行く道を時には優しく照らしておくれよ。

ブルームーン、私達の進む道を照らしてくれた。
そうね、願いは私達自身で叶えるものだわ！
だからねえ、ブルームーン、
どうぞ私達の行く道をこの先も優しく照らしていてね。

別々の場所、同じ月を眺めたけれど、
次のブルームーンは
同じ場所でみあげられますようにと祈りを込めて

*2012年8月は満月が2日、31日 二回目見ると幸せになるという言い
伝えがあります

Blanco 4

<http://p.booklog.jp/book/48710>

著者 : blanco

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/blanco/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/48710>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/48710>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.